

15:40 朝日小屋
[4日目：白馬岳：小雨のち暴風雨：8/8]
7:00 出発
11:50 雪倉岳避難小屋…※4
15:00 白馬岳…
15:30 頂上宿舎
[5日目：清水尾根：晴れのち小雨：8/7.5]
7:00 出発
9:45 お花畑
10:50 避難小屋
12:20 百貫山手前
15:10 祖母谷温泉…※5
[6日目：水平歩道：晴れのち雨：5.5/5]
6:00 出発
7:40 858mpo
8:45 蜷谷
9:50 志合谷
10:30 折尾谷…※6
11:30 阿曾原温泉…※7
[7日目：雲切新道：晴れのちガス：9/9]
5:50 出発
7:00 仙人ダム出口
9:40 1350mpo
11:20 仙人小屋
12:50 雪溪渡渉三回目
14:20 仙人池ヒュッテ
15:00 池の平小屋
[8日目：雪溪：快晴：6/7]
5:20 出発
7:10 二叉
9:00 真砂沢ロッジ…※8
11:30 剣沢野営場
[9日目：合流：晴れのち曇り：7/8.5]
5:20 出発
8:15 雄山神社
10:50 獅子岳

12:30 五色ヶ原…※9
[10日目：乗越：雨：5.5/6]
5:25 出発
8:55 スゴノ頭…※10
10:45 スゴノ越小屋
[11日目：薬師越え：晴れのち雨：5/6]
6:00 出発
9:40 本峰
11:00 薬師峠
[12日目：黒部五郎：晴れ：6.5/6.5]
5:40 出発
10:45 黒部五郎岳…※11
12:15 黒部五郎小屋
[13日目：西鎌：快晴：7/10.5]
3:50 出発
7:00 双六小屋
10:50 槍ヶ岳山荘…※12
[14日目：大キレット：晴れのちガス：6.5/9]
4:40 出発
6:10 南岳小屋
7:40 2800mp(急登直下)
8:50~10:00 北穂高岳北峰…※13
10:55 涸沢岳直下
11:20 穂高岳山荘
[15日目：ジャンダルム：快晴：9.5/11]
4:20 出発
4:30~5:20 奥穂高岳…※14
6:10~6:30 ジャンダルム先
7:30~8:00 天狗の頭
9:20~9:40 間山先小ピーク
10:00~10:10 西穂高岳…※15
11:45~12:00 西穂高岳山荘
13:40 上高地＝下山
ルート状況・特記事項
※1 梅海新道水場情報(2015.9.上旬)

1 日目:登山道から一般的に給水できるのはシキ割のみ。最初の林道～シキ割間で沢音が聞こえるポイントは 2,3 あった。シキ割は支流で、本流にはシキ割以外にもいくつも流れ込んでいる感じで水量豊富。

2 日目:白鳥小屋より 30 分下った先に「北又の水(白鳥小屋水場)」の入り口があることのみ確認。黄連の水(梅海山荘の水場)は往復 10 分以内、水量豊富。

3 日目:黒岩平の水場。渡渉(といって 2,3 歩)ポイントが 5 か所以上あって取り放題。日本海からだと黒岩山より 30 分弱で最初の給水ポイント。水量豊富。

以降はテン場で 2L 汲んで 1 日分の行動水とした。なお、槍ヶ岳山荘は ¥100/500ml 穂高岳山荘は無料。

※2 梅海新道小屋情報

白鳥小屋と梅海山荘が開放小屋として利用できる。御礼金 ¥2000/1 日となっているが…、有難く使わせていただきました。清潔で広く気持ちが良い。白鳥小屋の”幸せのノート”にはこれで二回目の書き込み?

※3 ソロは出発が遅い(?)

朝ラー、撤収、パッキングなど普段以上に時間がかかるのはしょうがないとして、まず起きられない(反省)。秋山の 1 人の朝は大変寒く、シュラフからでるのに 1 苦労 2 苦労する(反省)。

※4 雪倉避難小屋の利用について

去年の週末山行で計画的に使って、怒られた経緯があります。梅海新道の小屋の方針の延長上で捉えないように。ご主人さかいさんに、朝日のご主人ゆかりさんより無線を入れてもらっていたので、ご

挨拶したところコーヒーをご馳走になりました。“正念”が大事だという言葉にジンとききました。良好な関係を築きましょう。

※5 清水尾根下部

セクションで下部トラバース道、ポイントで下り 2 つ目の滝の渡渉開始点への降口が非常に悪い。細く、根だらけ倒木だらけ、頭上に樹木だらけで、急登で、長い。一般道の尾根とはジャンとか岩稜系とはまた違った”たちの悪さ”を感じた。精神的に相当やられる。計画に入れる際は最後にゆとりを!

…といってもご褒美の温泉は格別。シャンプーもできてしまう。ご主人に洗濯までさせてもらえた。まさに飴と鞭。なお避難小屋は常時開放、水場もすぐ。

※6 下ノ廊下水平歩道

“お兄さんならテントはれちゃうよ～”なんてガッシャーはすれ違いと頭上核心だな、とびびっていたが 858mpo 入口の人たちの言う通り本当に“そんなもん”であった。志合谷あたりから写真でみる岩溝のような道(遠目からみて)になるのだが、道は広くトンネル以外はモンスターマックスなガッシャーを特別気付かうポイントすらない。核心と言われる折尾谷先の”太太鼓”なんて「絶好の撮影ポイント(奥鐘と歩道の)」と化していた…これも「いき渡った整備」のお陰なのだが。劔カニのヨコバイのような”整備されつくしたがゆえの”感を感じた。前情報通り核心はまったく旧日電歩道であり、旧日電～水平歩道とつなげる場合はこのルート難度の差を意識しておくモチベーションの維持に役立つ(?)かもしれない。

なお、計画書にいくかもしれないと書いた S 字挟までのピストンは、気分が温泉だったので決行せず。話しによると吊り橋(ようは S 字挟が見れる目標地点)まではいけるとのこと。その先は不明(小屋の人に聞き忘れてしまいました)ですが、黒部ダムから来た人には出会わなかった(9月中旬)ので、計画書を事前に書く都合上やっぱり下旬～初冠雪までが現実的でしょうか。4年の秋に黒部ダム→丸東→黒部別山大タテガビン沢右俣→旧日電…うまくつなげられないかな…むりかな…かなり面白そうだけど。

※7 阿曾原温泉

時間交代制の湯舟(とケロヨン)だけの the 秘境の湯。近年高熱隧道の温度が下がっているようで、お湯はぬるめ。往復 10 分くらい。

※8 ロッジ近辺の雪渓状況(2015.9.中旬) 二股サイド登山道～ロッジ間の雪渓渡渉ポイントが崩壊していた。佐伯さんが真砂沢渡渉用の丸太橋を作って下さっていたので、あのハシゴ～ロッジ間の“増水時のみ”の看板道経由でロッジに辿り着く。ロッジ～野営場間は、ナムの滝が大きくなって周辺が薄くなっており、いつもより早めに大地に上がる以外は、夏合宿で歩いた通りの道で辿り着けた。ナムを詰めすぎて最近(9月上旬?)人が落ちたそう。とはいえ、長次郎との出会いは露骨に沢音が聞こえるポイントができていて気がつかった。

※9 小屋で荷物を預かってもらう場合

- ・荷揚げという概念は一般的でない
- ・白ガスは基本だめ

ということを有人の場所に預かってもら

う場合には気を付けましょう。今回は特別、小屋の外におくという対応で許可してもらってましたが、直接会えたので実質預かりはなし。6日分の消耗品を受け取る。かよ、ありがとー！針ノ木谷は¥3000分？/山行の価値がある？ほぼ沢登りで“今は悪くなって…？”偵察兼ねて行きたいものです。今回は雨降りなので行かずでした。

※10 薬師の行程を 12 時間行動にする場合

ここは名に聞く“乗越”の連続。下りも悪い。薬師自体は本峰～北峰間が 1.5h 弱かかるかな、ともかく「距離のわりに時間がかかる」のがこの区間だと思います。しもんたちつなげてたけど、実働 11 の夏縦走なら切ることをお勧めします。

※11 太郎山～黒部五郎岳区間について 謎にエアリア 2014 では”通行禁止”となっているが、ルートは全く問題ないです。

※12 槍のテン場(シルバーウィーク)

11 時前に着いたにもかかわらず？”あと 3 張ね～”とのことでした。前日に薬師峠～双六まで延ばすべきであった。少なくとも「コンディションにより～まで延ばすことがある」といった書き方で「計画に柔軟性」を持たせるべきだった。反省。なお、穂高岳山荘のテン場は山荘前の広場、ヘリポートも開放するためシルバーでも収容しきっていた、すごい。

※13 大キレット

タイム的には、小屋～急登直下:1.5H、～北峰:1H、計 2.5H としか書けないのだが、ルートと他のキレットと比べた印象を書いておく。(槍→穂)

・小屋～長谷川ピーク:下り下部でクライ

ムダウンを連発する。ホールドは大きくしっかり。浮石も少なめ。ただ、壁が立ち気味なのが怖さを感じさせる。

・hp～急登直下：ホールドが小さいがゆえにいやらしいトラバースを2・3回。

・飛驒泣き：浮石が格段に多くなり終始落石に気をつかう。自分の足元は勿論、なにせ人が多いので先行、対向者からも目が離せない。僕の前後で3回落石。1つは足をかすめた。ここの下りは相当気を使う。穂高の一般道全般に言えるが、マークの間隔が狭く、ガスでもルーファイにはそこまで気を揉む必要はないと思う。

大：セクションクライミング総合？(両方) >

不帰：ポイント垂壁(技術核心)≡

八峰：セクション岩場歩き(体力核心)

勝手なランク付けだが、他2つのクレットよりは”難所らしさ”を感じた。1年生の内には是非歩いておきたい好ルートだと思う。

※14 北穂南峰～涸沢岳、奥穂の道

飛驒泣きがあったので、奥穂もあんな感じか…？と気を揉んでいたら、下部はものすごく整備されてるし、上部は広く緩く非常に歩きやすかった。話しには聞いていたが北穂南峰～涸沢岳区間の方が、クライムダウンや細目の岩場トラバースするポイントが多くて、“意外と気を使う”印象でした。

※15 ジャンダルム(奥穂→西穂)

(1),2年で歩いておきたい非常に良いルートだったので詳細を書いておきます。

・馬の背：奥穂より歩いて5分にしてポイントで最大の核心だと思う。劔稜会の4p目？トラバース並みのホールドの細か

さを、ノーザイルでしかも下るイメージ…。ここのホールドはしっかりしてるし、落ち着いて探せばちゃんと見つかる系だけど、間隔遠目だし、何より“細かい”のが悪さたらしめてる。高度感と相まって大方の1年生は詰まる(馬乗りになる!?)…気がする。30overではもう行きたくない。

・ロバの耳：ここの登りに入る前に馬の背先よりクライムダウンする必要があるって、これが長く、浮石多く、立っていて悪い。

登り自体は、ポイントでフリーソロやらされる(?)。ただ、”本当に”必要な箇所には鎖がある。(ジャン全体で言える)

・ジャンダルム：西穂側より比較的やさしく登れそう(行ってない)。信州側で巻くが、ピークとの分岐手前で上下2つに道がついている。上部の方が壁側にガッシャーをぶつける心配もなく快適そう。分岐先で広々と平らになっており1本とれる。ジャン飛驒、コブともにぼっちり観察できる。ここまでで1H。

・～天狗の科尔：はじめは尾根上の巨石を渡って、暫くすると信州側に道が現れる。辿ると飛驒側に向かってガレルンゼを下って、そのまま飛驒側で小ピークを巻いて、しばらく下ると科尔に至る。下部はなかなか浮石。

・～西穂：ここから先の登り(天狗岳、間山、小ピーク)は、わりとセクションで“えいやっ”と体を持ちあげる系。ホールド、足元の浮石に引き続き注意。天狗頭まで1H。

(ジャン～天狗科尔までで30分強かな)

噂の逆層スラブは、天狗岳～間山の科尔で大きい1つ、あと小さいの2つがその先のどっかででてきた。鎖がバッチリ

か区間短くてで、鎖が濡れていない限りは全く心配無用。天狗頭～西穂まで1H40mほど。

今後ジャンは岳沢小屋への下降路としてお世話になるのかな。大キレットも色々書いたが、ジャン>大キレットここの差も大きい印象です。

※MSR

8日目、池ノ平出発の朝、ポンプ部が硬くなりポンピングが十分行えなくなった。粘ればお湯を沸かすことはできるが時間がかかるし心もとなさすぎる。確かに5日目くらいから火力がいまいちであった。今回は松橋との合流があり、事情を話し交換し事なきを得たが、本山行最大のヒヤリハットだ。

- ・ポンプ分解の知識が不足していた
 - ・ポンプの予備をいれてなかった
- ことが反省で、装備の特性の把握、関連して想定する力を鍛えることに努める。

※重量-体積問題

完全主観(夏合宿での45kgの体感ベース)だが初日で水を担いでない段階で45overに感じた。最大水4kg(といっても3p)担いだのでソロだと最大50kg近くなるのだろうか…(15+5)。消耗品14日分、テント2-3人用、アイゼン、ピッケル、ハードカバー4冊らへんを考慮してだが…。平均して45kg前後で歩き通すことを目安に想定しておけば十分だと思う。

軽量化の余地は、余計なものはおいて

- ・食料のα米化
- ・レーションの砂漠化(フライ系の。しっとりしてないやつ。)
- ・衣料の厳選
- (・テント)

((・雪渓装備))

()は北アなら持っておきたいところ。(())はルート次第。食べ物の乾燥化でかなり軽量化できると思う。

・衣料の厳選は大事だと思いました。今回は余分な服が3~5枚あった。シビアに軽量化を考える山行で活かしていこうと思う。

体積であるが、本来の量より少ないにも関わらずモニターゾーンぎりぎりになったのは、想定不足、及び事前の確認をしなかった自分の甘さに他ならない。

※ストックへの見直し

今回長期で歩荷ということと、冬のラッセルのサポート装備への期待もあって、「ストック」を持参した。これが本当であってよかったと思っている。

・立ち止まりガッシャーに突き刺す形で支えれば、ザックを下ろさなくても、腰肩背筋への負担を0にできる(体感)。

・下りで重心を下げる動きをサポートできるので、膝への負担を相当減らせる。

・めっちゃ推進力

自分の足だけで歩くから、体幹とか足置きとか重心移動の感覚が効率よく身に着く。ストックはそれが不十分な人用のいわば“初心者用の道具”というマイナスイメージが先行してなのだが、「長期」「歩荷」なんかに関わる山行では、ともかく「体への負担を減らす装備」として大活躍してくれること間違いなしだ。勿論ルート(×岩稜)対応の考慮点はあるが、積極的な利用へこの装備を見る目線を変えていいと思う。(特に爆弾を抱える1年生諸君!)自分は山行中は腰、膝がけっこうやられていたので、「体のケア(気遣い)」

の意識とその具体的方法の取得の大切さを本山行では実感した。

※単独行での消耗品について

・白ガス:無積雪期は100ml/1/1dayだが、空焚きを考えるとこれでは足りない。今回、空焚きしそうで残量に気を使いすぎたくなかったので急遽多め(+600ml)に持っていったので事なきを得たが、ソロではガス計算を多めに見積もっておくべきだろう。8/15day 雨に降られ、わりと“行程の半分”分は空焚きしたので、そこらへんが目安となろうか。

・レーション:関係あるかわからないが、いかんせん一人だと一本中ひたすら食っている(口寂しい?)ので、普段の1.5倍消費した(いつもカロリー通りやって余るので丁度よかったのだが)。普段よりは多めにあった方がよいのかもしれない。

※ 電波感帯(au)

白馬山荘別棟の宿泊所入口近辺、樺平、剣沢野営場、立山、スゴ乗越小屋、槍ヶ岳山荘、穂高岳山荘 (確認したところ)

反省-感想

すでに反省は書いたので感想の方を。
なにより1人な分?“大自然に抱かれています感”が味わえたのは良かった。音楽聞きながらぼーっと夕日見たりとか。他には好きなペースで歩けるからそこに関しては体力精神的にストレスないし、テン場で好き勝手(コーヒー読書三昧)できるし。よいものはよい。…がそれは下界でもできる!!

たぶん自分は、大自然の中の”人の要素”ってやつが好きで、管状の共有とか、タクティクスとかシステムとか、プロテクションとか…自分の仲間が写ってるから撮

影意欲もでるかな?RICOH は置いてきてしまった。

けれど「1人で大きいことやる」ってのはそれなりの価値があるような気がする。正直終わった直後は”うおっしやー”より”ふうー”って感想だが、今はじわじわとくるものがある。すっきりした。ここから始まるのかな。始められるかな。少し前向きになれたし、展望が開けた、そんな気分です。

◎10月

前穂高岳北尾根～明神岳主稜

L内田(会3)山下(会2)松橋(会2)

2015.10.10~12

Day1

5:50 上高地 BT

6:30 明神

7:30 中畠新道入口

10:00 奥又白池

12:15 5.6 のコル

Day2

雨、雪のため沈殿

Day3

5:00 起床

7:00 5.6 のコル発

8:00 涸沢

9:15 横尾

11:00 上高地

始発のバスで上高地に向かう。3連休であってさすがに人は多く、駐車場は早朝にかかわらずかなり埋まっていた。上高地に降り立つとまず3人は寒いと口をそろ

えた。中畠新道までは慣れた道。だらだら3人で歩く。中畠新道で少し登り、体はこれまでの行程で温まり、陽も出てきて気温も上がったせいか、いつの間にか汗が流れていた。パノラマ新道分岐で一本。止まると体は冷えるが山の中腹部では紅葉がまだ美しくなんだか清々しい。水場は枯渇寸前。そこからは奥又方面に。登山道はとにかく勾配もきつく時には木をつかみながら登る。会2の2人は息が上がっている。あまり気に留めず進める(笑)奥又は人は誰もいなく快適。この時期になっても虫がそこらに飛んでいた。水場は30mくらい下ったところにちよろちよろと出ていた。3連休でも出ているのが分かったのは有益な情報かと。そこから5.6の科尔へ。サマテンの時期に生い茂っていた草たちは枯れていたため道は明瞭。とても歩きやすい。トラバースを500mくらいしてからガレ沢に下り、ガレ沢を登ると5.6の科尔。このガレ沢は250mUPくらいで案外悪い。ガレ沢を詰めたところに一か所悪いトラバースがあるので注意。5.6の科尔は3~4人テント1張り、2~3人テントが2張りが限界。快適に過ごせそうな場所は1張り分。早く行くべし。2日めは予報通り朝から雨。雨も雪に変わり、夕方にはうっすら積もっていた。沈殿はとにかく暇。クイズ大会は意外に盛り上がった。朝起きると、外は一面真っ白。昨晚のガスも夜中の強風で抜け、真っ青の空と穂高の白がいいコントラストを生んでいた。朝6時ごろには陽も出て暖かくなると思ったが、風が強い。本当冬に似た雰囲気だ。撤収は迅速に。できることはテント内で済ませ、テントをさっさと

撤収。

潤沢経由でエスケープ。秋の潤沢は5.6の科尔のような厳しさはなく、登山者でにぎわっていた。横尾まで70分、横尾から上高地までは1時間半と上級生ペースで下山。総括としてはこの時期の穂高は恐ろしい。判断は慎重に。

劔岳早月尾根

日程：2015/10/24~25

メンバー：会4) 片野 小林 会3) 加藤(穂) 会2) L大槻 長谷川

行程：10/24 松本=馬場島~早月小屋

10/25 早月小屋⇄劔岳~馬場島

記録：

10/23

伊那組(加藤除く4人)は松本に前泊

10/24

3:30 松本発 7:20 馬場島出発 9:45 1600m 付近 12:10 早月小屋

白馬のコンビニで長野組加藤と合流し馬場島へ。馬場島からのんびりと登って行く。松尾平、1350m 付近、1600m 付近等に冬のテン場を見定めた。早々と早月小屋に着いたため遊んだりおやつを食べているとガスがかかったのでテントに入った。予報通り 18:00 頃から雨が降ってきた。

10/25

3:00 起床 4:00 出発 5:00 2600m 7:10 劔岳 9:05 2600m 10:00 早月小屋 13:45 馬場島

前日夜に降り出した雨は夜中には雪に変わり、起きるころにはテントの外は5cm程度の積雪だった。アタック装備で出発し、2600m 地点でアイゼン、ガチャ類を装着。その先獅子頭周辺の鎖場では鎖

FIX で通過した。山頂まで夏道沿いに進むことができた。山頂付近からは、真っ白になった剣沢、立山、白馬が見えた。下りは山頂直下や獅子頭周辺で前爪クライムダウンを強いられたが、特に問題なく通過した。日が昇ってから雪はしぶとく、早月小屋からだいぶ下っても残っており、滑るメンバーもいた。下山後馬場島で富山県警の山岳救助隊の方に声をかけられた。何か手に書類を持っていたしこちらが信大ということも分かっていたようなので計画書はばっちり把握されているらしい。山頂まで行ったかどうかや登山道の様子を聞かれたので、県警の人もルート状況等を知りたがっているのだろうかなどと想像した。山頂を踏んできたのは我々だけのようで、微妙な時期に山頂を踏めてラッキーだった。

奥穂高岳南稜

2015/10/11-12

メンバー

: L 渡部(会2) 菊田(会3) 植野(会2)

コース=タイム

11 日岳沢入り

16:25 上高地発(渡部,植野)~18:10 岳沢小屋

18:10 上高地(菊田)~19:40 岳沢小屋 (=B.C.)

12 日

5:25B.C.出発

~5:40 左支稜末端…※1

~6:35 中央ルンゼ(小滝先)(懸垂 20m)…
※2

~7:00 三段の小滝先一本

~7:30-8:10 右支稜 2p(20m/15m)…※3

~9:00-9:35 トリコニー I 峰基部(ch:30m)

~9:35-10:20 一峰トラバース(25m)…※4

~10:20-11:40 II 峰トラバース-小ギャップ-2,3 のナイフリッジ-ギャップ(懸垂 5m)

~12:00 南稜の頭

~13:25 紀美子平

~14:45-15:20B.C.

~16:55 上高地 BT

特記事項

※1 南稜取付き

2015.10 中旬の段階では、雪渓はシュルンドというよりは、それ自体がスノーブリッジになっていました。出合いは左支稜まで岩場伝いに歩ける程、融雪が進んでいました

※2 左支稜~中央ルンゼ

藪を一通り漕ぎ終わった後、少しルーファイをすると中央ルンゼの小滝先に降りる下降点が見つかりました。(アンカー: 木

※3 2p 登攀

1 ピッチ目の開始点にはボルトが1つ打ってありました。アンカーは木、ピナクルでとりました。

※4 I 峰

直登すると、南稜で一番難しそうに思われます。トップアウトした先はすぐに傾斜が緩くなっています。ボルトは…忘れてしまいました、すみません。トラバース後、リッジ上をへつり、ピナクルでアンカーをとりました。

感想

・秋の北アルプス

10/10 土曜の降雪により、2600m 付近から岩の割れ目が凍り付き、新雪が見られ

始めました。上部の岩稜、急なクライムダウン箇所ではより慎重な足置きが求められた。稜上付近での積雪は5cm強くらいでしょうか。この日の天候は風強く、ガスと、決してよいものではありませんでした。さらに降雪があったら吹雪となり、タイミングによっては安全な登山ができた確証はありませんでした。秋の北アルプスは、わかっていたことではありますが、非常にグレーゾーンでした。

・時間管理

登山体系上では、取付き～南稜の頭が3~4hとなっていました。僕らは6h20mかかってしまいました。①左支稜の藪漕ぎ、懸垂②登攀全般(ルーファイ、登り、回収)の2つが、主要因と思われます。②に意識的になることで、次回に生かしたいと思います。

※2015年10月の山行は上記以外にもありますが、2015年度下半期報告書に掲載します。

《事故報告書》

爺ヶ岳～鹿島槍山行事故報告書

松橋華世

【概要】

6月7日午前10時頃、種池山荘から登山道へ下る途中、先頭を歩いていた松橋が斜下降からクライムダウンへと体勢を変えようとした際に転倒、初期停止に失敗しそのまま30メートルほど滑落した。自力での停止はできなかったが登山道整備のために冷池山荘、種池山荘の方々が張っていたFixロープに引っ掛かり停止。滑落の際にピッケルが頭に当たり2針縫うけがを負う。

【事故後の行動】

事故後滑落地点の上部(図1-A地点)にいた河村、小笠原、小山は小屋の方たちの指示で待機。雪面が固まっており他のメンバーも滑落する危険性があると判断され、一人ずつローダウンで雪を削ってあった登山道の位置までおろしてもらう。その後松橋のけがの状態から自力下山可能と判断し、小屋の方々の登山道整備に付き添わせていただく形で下山を開始。具体的には小屋の方々が先に雪溪に入りFixロープを張り、登山道の位置の雪を削り次の雪のない箇所まで道を作ってもらい、その道をFix通過

させていただくという形をとった。ガチャを持っていなかったため小屋の方に借りた120スリングを腰にまきハーネス代わりとした。16:00に下山。

その後石畳まで何度かFixを張ってもらい途中県警に電話していただき遭難となった。石畳で県警の方と合流、一緒に下山してもらった。下山後松橋は救急車で搬送される予定であったが、県警の方の判断で中止。自力で病院に行くこととなった。

【状況】

事故現場付近はまだ雪が固くクライムダウンでも足が蹴りこみにくいような場所がところどころにあった。滑落した個所の少し上は比較的雪が柔らかく、斜下降でも十分に降りられるような状態であったが滑落した付近から固い雪面が出てきていた。雪面の下には木が埋まっており木の上では特に雪が解け再凍結していたため滑りやすかった。滑落地点の右側に木が出ていたため硬かったと思われる。斜面は30度くらいの傾斜でそれほど急であったということでもなかった。雪渓でクライムダウンを開始したとき小笠原は雪の硬さからキックステップで降りることが怖いと感じており、小山は種池山荘からすぐのトラバースで足を滑らせていたため慎重に降りるように意識していた。また滑落直前、小笠原が持病の腰の痛みを訴えたため団装と一部の個装を松橋が受け取った。滑落した斜面は50メートルほど下まで木が出ていなかったためロー

プがなかった場合には50メートルから100メートル以上落ちていた可能性もあるような斜面であった

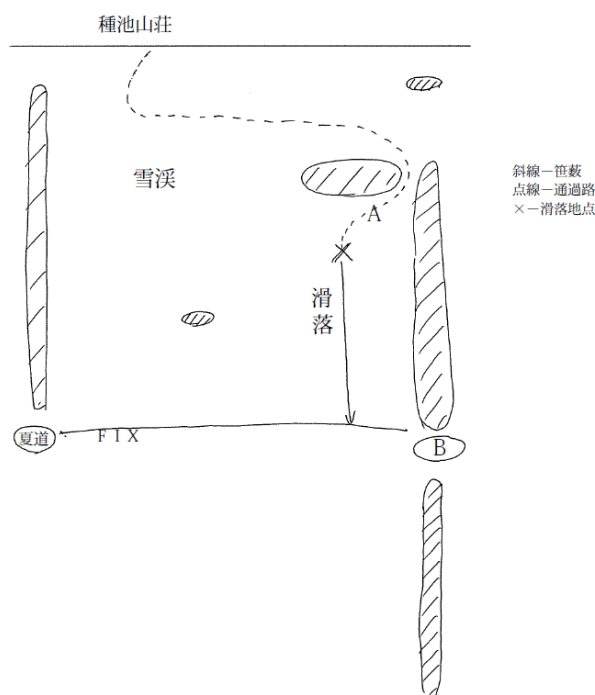


図1 事故現場概念図

【現場での傷の対応】

目に血が入ってきたことと、雪面に血がついていることからどこか怪我していることはわかったが動揺していたことでどこから出血しているかは自分では特定できなかった。山荘の方に額の上部が1cmほど切れているから清潔なガーゼを当てろと指示をいただきそれに従う。また、傷が小さくても頭の場合血がたくさん出るだけだから大丈夫だという声掛けをいただいた。意識もはっきりしていたため、水分を補給しながらガーゼを当てていた。結果的に指摘していた箇所は垂れてきた血がたまっていただけであったため、直接的に傷に処置はしていない。

【医師の診察結果】

後頭部を1 cmほど二針縫う怪我で全治一週間。CT検査の結果脳内部に異常はなし。怪我をしたのが10:00で処置時間が19:30であり時間がたってしまうため破傷風の予防接種と一定期間の抗生物質の服用を指示され、一週間後に抜糸を行った。現場で指摘された額上部は、血が垂れてきてたまっただけであった。

【事故について】

松橋華世

通過してきたところが柔らかかったことや下らなければいけないところが中盤に差し掛かり今まで下れたから最後まで大丈夫だろうと気を一瞬抜いてしまったことがこの事故の原因であった。気を抜かずに最後まで慎重に行動していればこのような事故は起こらなかったであろう。その他の原因はルートファインディングミスである。下降路は登った道とは異なる経路をたどった。上部から確認できた夏道を見失いたくなく、上部から確認した程度では差異がないように見えたためこのような判断をしたが、一回通過している経路をたどる選択をしたほうが状態も分かっており安全な選択であっただろう。夏道を正確に見つける自信がなかったためこのような判断をしてしまった。また、雪上でしっかり立てる安全な足場を作りながら歩くということができていなかった。動揺していたとはいえ事故後正確な行動時間を記録していなかったことも反省点である。

今後私が改善していくべきことは第一に歩行技術である。そして、ルートファインディングや危険箇所を察知し集中を持続させることを身に着けることである。すべて山

に入り経験しなければ身につかない。今回のことで今までは一年の連れていかれる立場で指示に従っていれば何とかになっていたことが自分で判断しなければいけない技術が誤魔化せない立場になることで自分の山を歩く技術のなさが浮き彫りになった。本当はこのような状況になる前に正しく自覚し、上級生に相談していなければいけないことであったが、今回で気付けたのだから今後の山行で身に着けていこうと思う。この状況に対応していただくため、正しい判断ができる上級生に必ずパーティにいるように山行を組んでもらえるようにしていただいた。

怪我をして感じたことは、怪我をすると動揺していて痛みもよくわからず特に自分で見えないような頭の怪我を発見することは不可能であると感じた。今回は傷も浅く手当てしなくてもすぐに出血が止まったが、同じパーティの人は本人が大丈夫と言っているにもかかわらず出血位置を確認することと他に怪我がないことを詳しく見ることも必要であると思った。とにかく動揺して落ち着こうとしてもまったく平然の状態になることは不可能なので、もしそのような立場になったら自分が動揺していることを自覚し、パーティの人の指示に従うのが一番だとも思った。

滑落し最悪の状況も想定できた中で幸運と多くの人のおかげで無事であることができた。反省点を見直し今後の山行で改善していくとともに落ちたからこそ本当にわかる怖さや歩行技術の大切さを後輩にも伝えていき、このような事故が起こらないように努めたい。

本当に山荘の方、県警の方ありがとうございます

いました。

河村将人

事故の反省

・入山前の下調べ、持っていく装備に関する認識の不足

参考計画を出す際にこの時期の山行予定地の情報の入手量が絶対的に少なかった。

去年の記録など調べていたが実際に行ってみると雪の量が段違いに多かった。同じ時期の記録だけではなくもう少し前の山行記録なども確認しておくべきであった。

入山前には2～3か所程度だと考えていた雪溪が倍以上あったことが下調べの不足を表している。

またこの時期は爺ヶ岳南尾根を下降に使うこと推奨していた。だが計画書に南尾根のことが書かれていなかったため使用することができなかった。

南尾根を使った場合にはルートファインディングの能力が必要になったり、登山道に復帰する際に雪溪があったかもしれないなど不確定要素も多く選択したかどうかわからないが計画書には書いておくべきであった。

装備に関しても事前の下調べ不足からアイゼンをもっていないという選択をしてしまった。

山小屋の方や県警の方から注意されたがこの時期の山に入山する場合ピッケル、アイゼン、ヘルメットは最低限使う使わないに限らず持っていくべきであった。

・キックステップの甘さ、実力不足

アイゼンをもっていないという判断を

したのは雪溪がほとんど出てこないためクライムダウンを慎重に行えば通過できるという考えの甘さもあった。

たとえ雪溪がほとんどなかったとしても、今回のように固まった斜面であった場合誰も滑落しないとは言い切れない。

新人合宿で雪上歩行を習ったばかりである1年生はもちろんのこと2年生もまだまだ雪上での歩行はできたとしてもアイゼンなしで

1年生の滑落を止めたり、凍った斜面を歩くことはできない。このような状況でアイゼンをもっていないと判断したことは実力の正しい認識ができていなかったし、キックステップの技術が未熟であることの表れであると思う。

・ルートファインディング能力の不足
今回滑落した雪溪では雪溪の左端が登山道であったが、下降時には右端から下降した。

理由としては雪溪から夏道が出ている箇所が分かりにくいと判断したためであるが、この結果木の多い個所に入ってしまった

滑落することとなった。今回は左端を登山道を目安をつけ探しながら下降していれば事故を防げていたかもしれない。

・リーダーとしての役割を果たせなかったこと
滑落事故が起こった時私は1番後方を歩いていた。

松橋の滑落も1年生の陰になって気づくのが遅れた。今回の場合小屋の方がロープを張っていたため助かったが、ロープがなかったら気づくのが遅れるだけでどこまで滑ったかわからなくなって

いたかもしれない。今回は小屋の人の判断

で遭難となり県警の方に来てもらうことになり、小屋の人の指示に従い道を作ってもらいながら下山した。リーダーとして小屋の方や県警の方の説明を聞くことくらいしかすることができなかった。リーダーとして事故が起こった時の対応をもっと細かいところまで考えておかなければならないと痛感した。

度としない。

今後の改善策

今回の事故の1番の原因は実力不足であったと思う。確かなキックステップの技術があれば滑落する可能性は極めて低くなるし今回の事故も起きなかったかもしれない。新人合宿で雪上歩行を教える身でありながらしっかりと隊を率いて歩けなかったことはこの事故の原因として大きかった。一方で歩行技術が足りないなら足りないなりに持っていく装備についてもっとシビアに考えたり、山行のルートや行く山域について精査し、調べつくしたりするようなリーダーとして当たり前にはできなくてはいけないところへの意識が欠けていた。今回の山行では技術の不足はもちろんのこと山に入ることに對する気構えが足りなかったことが影響して事故が起こってしまった。今後は技術を身に着けることはもちろんのこと、その時にできるベストな選択をあらゆる可能性、考えの中から見つけ出して山行を出す。1年生を不安にさせるような山行は二